

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
総合柔道整復学11							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	3年	3期	大隅 祐輝		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
<p>柔道整復師として、損傷の経過や患部の所見に合わせて適切な評価と後療法を実施しなければならない。 軟部組織損傷は臨床現場で多く取り扱う損傷である。 その為、解剖学的視点から症状を理解し、適切な評価をできるようにする。</p>							
目標							
一般目標 (GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標		上肢の軟部組織損傷に対する基礎知識を学ぶ事で「疾患に対する適切な評価」を行えるようになる為、「各疾患の特徴、症状、検査法、後療法」などの知識を身に付ける。					
到達目標 (SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)		1. 人体の解剖学的構造について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 2. 上肢の軟部組織損傷の「概要」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 3. 上肢の軟部組織損傷の「受傷機序」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 4. 上肢の軟部組織損傷の「症状」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 5. 上肢の軟部組織損傷の「検査方法」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 6. 上肢の軟部組織損傷の「整復固定」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。 7. 上肢の軟部組織損傷の「後療法」について選択肢から適切なものを選ぶ事が出来る。					
履修に必要な予備知識や技能							
柔道整復学理論の総論的知識 解剖学的知識(特に骨格・関節・筋・神経範囲)							
教科書・参考書							
柔道整復学理論編 第6版 柔道整復学実技編 第2版							
受講上の注意							
授業の妨げになる私語には注意すること。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	肩関節部の軟部組織損傷 「腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷・ペネット損傷・SLAP損傷」			P245～250	教科書 筆記用具		
第2回	肩関節部の軟部組織損傷 「肩峰下インピンジメント・リトルリーガー肩・動揺性肩関節・肩甲上神経絞扼障害」			P250～253	教科書 筆記用具		
第3回	肩関節部の軟部組織損傷「腋窩神経絞扼障害・五十肩」 上腕部の軟部組織損傷「橈骨神経損傷・尺骨神経損傷」			P254～255 P262	教科書 筆記用具		
第4回	肘関節部の軟部組織損傷 「側副靭帯損傷・肘関節後外側回旋不安定症・野球肘・テニス肘」			P284～287	教科書 筆記用具		
第5回	肘関節部の軟部組織損傷「バンナー病・変形性肘関節症」 前腕部の軟部組織損傷「前腕コンパートメント症候群・腱交叉症候群」			P287 P299～300	教科書 筆記用具		
第6回	前腕部の軟部組織損傷 「正中神経障害(回内筋症候群・前骨間神経麻痺) 橈骨神経障害(後骨間神経麻痺)尺骨神経障害(肘部管症候群)」			P301～304	教科書 筆記用具		
第7回	手関節部の軟部組織損傷 「三角線維軟骨複合体損傷・ド・ケルバン病・手根管症候群 尺骨神経管症候群(ギヨン管症候群)」			P321～322	教科書 筆記用具		
第8回	手関節部の軟部組織損傷「キーンバック病・マーデルング変形」 手部・指部の軟部組織損傷「指側副靭帯損傷・ロッキングフィンガー」			P323～324 P345～347	教科書 筆記用具		
第9回	手部・指部の軟部組織損傷 「ばね指・デュブイトラン拘縮・ヘバーデン結節・ポタン穴変形 スワンネック変形」			P348～350	教科書 筆記用具		
第10回	定期試験				筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
整形外科勤務、接骨院勤務で得た臨床経験を踏まえ、柔道整復師として外傷の判断を的確に行える様な知識を身に付けて貰える様に講義を進めていく。							
メールアドレス							
osumi@nihonisen.ac.jp							